

一

次の――線部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを書きなさい。

- ① 今年はダントウで、雪が少ないようだ。
- ② 学力の向上にツトめる。
- ③ スポーツ選手としてのシシツにめぐまれる。
- ④ 交通費をセイサンする。
- ⑤ 長年のコウセキをたたえる。
- ⑥ それは重大なことだから看過できない。
- ⑦ みんなの声援に奮い立つ。
- ⑧ 畑に農薬を散布する。
- ⑨ 策を練りすぎて墓穴をほる。
- ⑩ 収拾がつかない事態となった。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注意) 字数制限のある問題は、句読点や記号なども、一字として数えます。

その日は、由香が見つけてきたチアダンス協会主催の「一日体験ビギナーズレッスン」の日だった。

クラブ結成のための手続きは黒沢先生がすすめてくれて、他のメンバーはクラブができてから集めるしかないし、とりあえず自分たちだけで、レッスンを受けてみようと思ふ由香が決めたのだ。

「えー、べつにそんなの参加しなくてよくない？」

桃子はそんなふうに最後までイヤがっていたけど、当日、待ち合わせ場所にはちゃんとあらわれて、三人そろってスタジオに向かった。

だけど、スタジオに集まってる子たちを見て、^①あかりは、どきまぎするばかりだった。

身体を曲げたりのぼしたりする柔軟体操をしているみんなの姿が、どう見ても、初心者なんかじゃないのだ。身体だってすごくやわらかいし、たとえチアダンスは初めてでも、バレエや他のダンスは小さいときからつづけていたんだらうなって子ばかりだ。

半分くらいがそんな小学生たちで、あとは高校生とか大学生くらいの人たちもいた。みんなチームできているので、楽しそうにおしゃべりしながら、身体をのばしている。なかには、急にむずかしそうなダンスを格好よく踊りだす子たちもいて、あかりは不安になっていった。

「ビギナーズレッスンって、初心者向けってことだよな」

ふたりもまた、不安そうな顔でまわりをみていた。

「だけど、みんなすごく踊れそう感じたよな」

そしてうなずきはするものの、その気持ちをはずきりと言葉にはしなかった。

ここまできて今さら泣き言をいうのは格好悪いとばかりに、無言で身

そのあと、インストラクターのお姉さんたちが曲に合わせて、チアダンスを披露してくれた。しかもそのダンスを今日のレッスンでマスターして、最後には発表してもらおうというのだ。

あんなの、できない……。しかも、今日だけで？

とても、無理。ぜったいに、無理。

そこで一度休憩になって、あかりはさすがにだまっていられなくなった。

「ねえ、私、あんなのできないよ」

「あー、あかり、やる気なくしてるー」

バカにしたように笑う桃子を、あかりは「じゃあ、自分はどんなわけ？」と思いながら、にらみつけた。

「大丈夫だよ」

だけどそんなあかりをはげますみたいに、由香がいった。

「インストラクターのお姉さんたち、やさしそうだし、初めてだからうまく踊れなくても、叱られたりはしないよ」

そうはいいつつ、由香もまた不安そうな顔をしていて、あかりはひとりだったら逃げだせるのになあと思った。

四年生のとき、通いはじめたばかりのスイミング教室では、そうした途中で、コーチにトイレにいくといって、そのまま着がえて帰ってしまったのだ。

だけどふたりがいるから、今日はそんな格好悪いことはできない。そして、休憩がおわると、いきなり振り付けからはじまって、そのあとはもうひたすら身体を動かすしかなかった。

桃子も由香も、すぐには振り付けが覚えられずに*一四苦八苦しているようだったけれど、空手やバイオリンでむずかしいことをやらされることに慣れているのか、必死でくらくらいついていた。

そして、最後はグループごとに分かれて小さな発表会をして、レッス

体を曲げたりのぼしたりしはじめている。あかりも仕方なく、ふたりと同じように、柔軟体操をすることにした。

受付開始の時間になって、三人はカウンターに向かった。そして、申し込み用紙をだして、ひとり五百円のレッスン料を払った。

申し込み用紙のチーム名のところには、大森先生が考えてくれた『グッドジョブガールズ』と書いた。

【Good Job】っていう英語は、【よくやった！】とか【すばらしい！】って相手をほめるときに使う言葉なの。あなたたちが頑張って踊ったあとに、そんなふうに声をかけてあげたいなって思ったの。『よく頑張った！ 三人とも最高！ 最高の女の子たちよ！』って感じでね。どうかしら」

三人は、先生がそういつて授けてくれたチーム名に感激して、迷うことなくそれに決めたのだ。

他の子たちの申し込み用紙をちらりと見ると、チーム名の欄に『スイートベビーズ』とか『ワイルドエンジェルズ』とか書かれていて、あかりはやっぱり大森先生に考えてもらってよかった、チーム名だけでも他に負けてなくてよかった、と思った。

やがて、レッスンはじまる時間になって、指導してくれるインストラクターが紹介された。インストラクターは、元気いっぱい、スタイル抜群のきれいなお姉さんばかりだった。

チアダンスって、もしかしてかわいくないとダメなんじゃないの？ 短いスカートが似合うスタイルのいい人じゃないとやっちゃいけないんじゃないの？

^②あかりは、お姉さんたちの説明をききながら、不安を通りこして、逃げだしたくなった。

説明がおわると、準備体操に柔軟体操とつづいて、チアダンスの基本ポーズのレッスン。

ンは終了した。

「ああ、つかれたー」

レッスンは終わったスタジオのすみで、三人はぐったりと座りこんだ。

「でも、最後はなんかちょっと踊れた感じになったよね」

それでも、由香は満足そうな顔をしていた。

たしかにあかりも、なんとなく踊れたような気分になっていた。

全部の振り付けは覚えられなかったけれど、最後にポンポン持ってシヤカシヤカやりながら踊ったら、振り付けなんかいいやって気分になって、けっこう楽しかったのだ。

だけど、とてもだれかに見せられる踊りじゃないとも思っていた。こんな踊りで応援されても、小林くんはうれしくない。

っていうか、こんなの見せられない、見せたくない……。

すると桃子が、満足気な由香を非難するように、*二とげとげしい声でいった。

「でもさあ。私たちが全国大会優勝って、ぜったい無理じゃない？」

そうだよな。無理だよな。

あかりも、そのとおりだと思った。

^③目標は、せめて応援されてもはずかしくないダンスでいい。

それだって、できるかどうか……。

だけど由香は、*三あっけらかんとしていった。

「うん、全国大会優勝は、無理かもね」

「えっ？ でも、それを目標にしてやるんじゃないかってっけ？」

桃子がそんな由香をあきれ顔で見つめる。

「うん、そうだけど、頑張ったっていうのが、最高の思い出になるじゃない？」

それでも由香は、さわやかだった。これからのことを想って、わくわくしているようにも見えた。

「ええっ、それでいいの？」

桃子がそんな由香をせめるみたいに、大げさに驚いてみせる。

「もちろん、目標は全国大会優勝のままでいいよ。だけど私たちの目的は、優勝することじゃなくて、思い出をつくることでしょ？」

「ただ由香は、にこやかな笑みを浮かべたままだ。」

「なんかさあ……」

そこで桃子が、わざとらしく大きなため息をついた。

「チアダンスなんて、やめない？」

その言葉に、由香の顔色が変わった。

「チアダンスじゃなくて、他のことがしたいってこと？」

「うん、他のことがいい」

そして桃子はにっこりと笑ってつぶけた。

「私、やっぱり由香のお父さんにお金だしてもらって、世界一周旅行がいいな」

また、いつもの、おふざけがはじまったよ。

あきれたあかりは、あえて会話に参加しないことにした。

「あつ、それとも、あかりの新しいお母さんを探すのもいいよ。お金持ちで、超美人なお母さん。それで、私たちの世界一周旅行のお金をだしてもらおうの」

バカバカしい……。

すると、由香の*₄声色が変わった。

「桃子、ふざけないで」

「べつにふざけてないよ」

「ふざけてるよ。チアダンスやるって決めたんだから、文句いわないでちゃんとやってよ！」

あかりは驚いて、由香を見た。

由香が怒鳴った……。

三人のなかで一番しつかりものの由香は、なにか文句をいうときでもにこにこしていて、^④空気を悪くするようなことは決してしない。

なのに、その由香が、怒ってる。怖い顔で、桃子をにらみつけている。

「なんかさあ」

そしてそんな由香を、桃子は見逃さなかった。

「由香、おかしくない？」

「なにが？」

「マジになりすぎじゃない？」

その言葉に、由香が一瞬、^⑤ひるんだのがわかった。

「だいたい、私たち悪友なんだから、こういうマジなのは似合わないじゃん」

たしかに、桃子のいうとおりだ。

「でも、桃子だって賛成したでしょ？」

「一応、ね。でも、私たち、悪友だよ？　こんなマジなの、私たちらしくないじゃん？」

「でも、フツーじゃないことしてみようって……。だからやってみようって……」

由香から、さっきの勢いが消えていく。

「いや、チアダンスに挑戦して、それを自分たちのいい思い出にするだけなら、全然フツーじゃん。普段仲良しぶってるやつらが、いかにもやりそうなことじゃん」

「でももう、時間がないし……今から他の考えてたら、卒業までに思い出つくるの間に合わなくなっちゃうし……」

するとそんな由香の言葉に、桃子がくすりと笑った。

「時間がないって、私たち卒業するの、来年の春だよ。時間はたっぷりあるよ」

「でも……もう、黒沢先生にも動いてもらってるし……」

——そうだよ。みんなでいっしよに頑張ろう。

——うん、わかった。私、頑張ってみるよ。

それぞれが相手を思いやって、やさしい言葉をかけあって、ともに困難に立ち向かう。

本当はそういうのが理想なんだけどな……。

あかりはそんなことを考えながら、ひとり*₅もくもくと着がえた。

「だけど現実、あかりがそのあと」はなかったし、全員がむすつとだまったまま、もくもくと身支度をしただけだった。

「じゃあね」

そして体育館をでると、あかりの言葉を合図に、そのままそれぞれの家に帰ったのだった。

(草野たき『グッドジョブガールズ』)

*1 四苦八苦：非常に苦しむこと。

*2 とげとげしい：態度や言葉づかいが荒くてきつい感じを含んでいるさま。

*3 あっけらかんと：何もなかったように平気でいるさま。

*4 声色：話すときの声の調子。

*5 もくもくと：黙って何かをし続けるさま。

「大丈夫だよ、黒沢なんて。やっぱやめますっていえばいいだけだよ。私がいつといてあげるよ」

「だけど、もうやるって決めたわけだし……」

そこでさすがに、あかりもだまっていられなくなった。

「ちよっと、こんなところでもめないで。ほら、もう、帰ろう」

そしてふたりの仲をとりもつようなことはいわず、ひとり立ちあがると、着がえるためにさっさと更衣室に向かった。

するとふたりも、それ以上いい合うのはやめて、自分の荷物を持って立ちあがっていた。

まったく、いいかげんにしてよね。

^⑥あかりはふたりがあとを追ってくるのを気配で感じながら、ふうと小さく息をはいた。

桃子がやりたくないなら、それでいいし、由香がこだわっている思い出づくりだって、どうでもいい。

私は、小林くんに喜ばれるようなダンスで応援したい。

だから、やるならちゃんと、踊れるようになりたい。

そんなふうに分だけの目標ができてしまったあかりにとって、ふたりのケンカは面倒でしかなかった。

そして、あかりとしては、本当ならこんなふうにはげまし合える仲間でやりたいのだ。

——ねえ、私、チアダンスなんてできるかなあ。

——大丈夫だよ。頑張ろうよ。

——でも、だって、すごくむずかしいよ……。

——うん、私もすごく不安になっちゃった。だけど、みんなでいっしょに頑張れば、きつとできるし、私たちの絆も強くなるし、すごく

いい思い出になると思うんだ。

——そっか……。そうだね。なんか勇気てきた。

問1 ― 線部①「あかりは、どきまぎするばかりだった」とありますが、このときのあかりの気持ちの説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア レッスンに集まっている子たちのチャダンスの動きを見て、自分たちにできるのかと、不安になっている。

イ レッスンには高校生や大学生もたくさんいて、自分たちが小学生であることにすっかり気後れしている。

ウ レッスンに集まった子たちはみんな真剣^{しんけん}そうで、遊び半分で来ている自分たちのことが恥^はずかしくなっている。

エ ビギナーズレッスンといいながら、バレエやダンスのレベルが高そうな子ばかりで、うろたえている。

問2 ― 線部②「あかりは、お姉さんたちの説明をききながら、不安を通りこして、逃げだしたくなった」とありますが、このような気持ちになってしまったあかりの性格は、以前からあったようです。それを裏付けるあかりの行動を表した段落を探し、はじめと終わりの五字を書きぬきなさい。

問3 ― 線部③「目標」とありますが、この時点で、チャダンスを練習する目標について、三人が思っていることにはちがいがあるようです。そのちがいについて六十文字以内で説明しなさい。

問4 ― 線部④「空気を悪くするようなことは決してしない」とありますが、あかりも三人の間の空気が悪くなるようなことは望んでいません。あかりはどのような関係を望んでいるのか、「～ような関係。」に続く部分を文中から三十八文字で探し、はじめと終わりの五字を書きぬきなさい。

問5 ― 線部⑤「ひるんだ」を言いかけた言葉として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア はにかんだ イ むかついた
ウ たじろいだ エ うろたえた

問6 ― 線部⑥「あかりはふたりがあとを追ってくるのを気配で感じながら、ふうと小さく息をはいた」とありますが、このときのあかりの気持ちの説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 桃子と由香のいさかいは、ただわずらわしいだけで、三人でチャダンスの練習ができなくなってもいいとさえ思っている。

イ 自分たちははげまし合える仲間のはずなのに、なぜケンカなどするのだろうか、ふたりのことを情けなく思っている。

ウ 三人の気持ちがいざなうになってしまい、こんなことでチャダンスが踊れるようになれるのだろうか、不安に思っている。

エ 桃子と由香に自分の目標をじゃまされているように思えて腹を立て、チャダンスのこともどうでもよくなっている。

問7 にあてはまる最も適当な語句を、文中から十五文字で書きぬきなさい。

問8 登場人物の言動や性格などに関して説明した文としてふさわしくないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 三人の思い出づくりをからかうようなことを言う桃子に由香はすぐさま食いついたが、あかりはただ横目でながめていた。
イ 普段仲良しぶっているやつらとはちがい、三人は悪友だと言い放つ桃子は、思い出づくりなど考えたくもないと思っている。
ウ 由香はその場の雰囲気^{ふんいき}を険悪にするようなことはしないタイプだが、桃子に対して怒り^{いか}をストレートにぶつけている。
エ ふたりと行動を共にしながらも自分のことを中心に考えるあかりだが、友情ドラマのような関係を思い描^{えが}いたりもしている。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注意) 字数制限のある問題は、句読点や記号なども、一字として数えます。

① 哲学するには、まず孤独になる必要があります。

日本人はずっと孤独を悪とみなし、群れることを善としてきました。「孤独死」という日本語がありますが、こういう、人の*¹ 尊厳を傷つけ、侮辱する日本語は、早く日本社会から消えてほしいものです。

日本人は群れることが好きだ、といわれてきました。群れることは個人や個性を否定し、殺し、*² 全体主義につながります。

この悪しき伝統を、根絶やしにしなければ、日本の近代化は完成しません。

近代人は、一人ひとりが自律して、個性に生きるところに成り立つものです。

群れて個性を*³ 埋没させたり、殺したりするのと正反対に、自分独自の考えをしつかり持ち、つらぬく強さが大切なのです。それを、個人主義と呼びます。

これまでは、利己主義ととりちがえて否定しがちだったこの② 個人主義を、つよく*⁴ 標榜しようではありませんか。

みなさんは若くて、人生への船出の準備がはじまるところにいます。十八歳からは親や先生の意見から解放されて、自由に自分の判断で生きていくことになります。

十八歳からは、独り立ちできるし、独り立ちしなければなりません。ですから、自由に開放される十八歳までに、生きていくのに必要な基本的なことを身につけ、自分の人生行路の、方向づけをしなければならぬのです。

そこで大事なのは、自分で考えるということ。

徐々に自分の価値観をしつかりかため、自分を信じ、他人の意見には

らべて、みなさんはどんな感想を持ちますか。

ところで、このところ憲法の改正について、騒がれています。自衛隊と戦争放棄をうたった第九条との関連について、問題になっているのです。

戦争放棄の条文は、こうなっています――。

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求(強く願ひ求める)し、国権の発動たる戦争と、武力による*⁵ 威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

ここの③ 2の項目が問題になっています。

この戦争放棄と、民主主義の根幹である「主権在民」(第三章国民の権利及び義務)が、日本国憲法の三大特徴の一と二であることは、みなさんもよく知っていると思います。

しかし、三つめの特徴がなんであるか、よく知らないではありませんか。

それは、第十三条です。

すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。

ここにうたわれている「すべて国民は、個人として尊重される」という点については、これまで見過ごされがちでした。④ ということは、「個

簡単に左右されないことです。

A (自分の意見がなく他人の意見にしたがうだけ) なんて、もつてのほか!

ぜったい 避けなければいけませんよ!

▼かなり前のこと。NHKのヨーロッパ総局長をしていた磯村尚徳さんの、ヨーロッパ・レポートというテレビ番組を見たことがあります。そのレポートのなかで、特に忘れられないで記憶に残っていることがあります。

それは、日本の外交官たちが、ほかの国の外交官たちと違って、揃いもそろってアタッシェケースを小協に抱えて、個人としてではなく「群れて」あわただしく、右往左往している光景が目立ち、*⁶ 奇異に思われているというものでした。

個人が重んじられ、個人として行動するのがあたりまえのヨーロッパにあつて、群れて行動する日本人。それも一般の人ならいざしらず、国を代表する外交官たちが、そういう*⁷ ぶざまな姿を見せたということは、さぞや見苦しかったに違いありません。

「群れる」という行動パターンは、日本人の悪しき習性で、ながく続いた軍国主義の特異な遺産だという人もいます。

京都で、修学旅行生の行列に出会ったフランス人が、「日本では、いまだに軍隊教育がおこなわれている」と言った、という話を聞いたことがあります。個人主義の見本といわれる国の人の感想として、うなずかれます。

甲子園球場での全国高校野球大会のあの入場行進も、どこか軍隊の匂いがするという人がいます。▲

これにくらべ、サッカーの国際試合などに見られる、入場式。選手たちが幼い子どもの手をとって入場するあの姿。高校野球の入場行進とく

人の尊重」の思想がまだ国民すべてにゆき届いていないのではないか、ということです。もつともつと*⁸ 浸透する必要があります。

日本人はともすると、「和をもつて貴しとなす」というあの聖徳太子の「十七条憲法第一条」が身についていて、争いをさけ、自分の主義主張を控えがちであります。日本国憲法には、「個人の尊厳」というヨーロッパの長い歴史をへて勝ち取られた思想が、盛りこまれているのです。アメリカからの押しつけ憲法だとかいわれるのも、この辺によるのかもしれない。

*⁹ なんびとも*¹⁰ 侵すことができない「個人の尊厳」という思想は、西洋でつちかわれたものですが、今では人類共有の財産なのです。個人一人ひとりを大事にする思想は、もつと徹底される必要があります。一人ひとりが違つていて当然。同じはありません。それぞれの個性が尊く、侵すべからざるものだから、互いに尊重しあわなければなりません。これが、個人主義の基本理念です。

学校などで同じ好み、同じ感じ方でないと仲間はずれにすることがあれば、それはまちがっています。早く正さなければなりません。

自分と同じ考えだから友だちになるのではなく、むしろ⑤ 自分とは違う感じ方、違う考え方だから、友だちになれるのです。そこで、刺激しあい、B (励ましあい競いあつて向上) するから友情がはぐくまれるのではないでしょう。

いっしょにトイレに行くから友だちだ、とか……。それは、おかしいですね。

パリで暮らしていた時のこと。喫茶店でこんな光景を見かけました。コーヒーを飲みながら親しそうに歓談していた二人の若者が、突然*¹¹ けんもほろろな言い合いになり、両者共に譲らず、*¹² はために口喧嘩しているように見えたことがありました。

しかし、やがておさまリ、仲良くいっしょに食事にでも行くように、席をたつのでした。これにはビックリです。

日本でなら、喧嘩わかれになるような場面だったのに。そうはならずに、友情がこれがないのを見て、これが個を尊重しあう姿勢なのだなと、つくづく感じ入ったのでした。

友だちだからといって、いつも意見が合うとはかぎりません。むしろ意見の違いが互いの考え方を認めあうことにつながり、友情がそこなわれることがないのです。

個人主義が確立している社会では、幼稚園ようちえんの時からすでに、人真似ひとまねではなく、「自分の意見」を持つように指導されていて、先生から意見を求められた時、

「誰々さんと同じです」と応えようものなら、

「君の意見はないのですか。それでは、君は存在していない、のと変わりありませんね」

と言われてしまうのだといいます。

だから、生徒たちは少しでも違う意見を述べて、自分の存在を主張するようになるのです。十人いれば十の意見があるのです。

こうして個性の違いが際立ち、それぞれ平等に尊重される風習が育てば、⑥*¹³陰湿ないじめだつて、なくなりそうです。

この個性主義、個人主義がゆきわたった社会では、みんなが生き生きとして、生きる歓びを味わうことが、「平等に」できるでしょう。それが成熟社会せいじゅくというものです。

日本も、個人の自由、自律が憲法によって保障されているのですから、めいめいが自分の好きな人生を選び、生きることに歓びを見出し、充実した日々を送ることができる、そういう社会の実現をめざしたいものです。

(小島俊明『ひとりで、考える』)

*1 尊厳：とうとく、おごそかなこと。

*2 全体主義：個に対して全体を優先させる主義。

*3 埋没：うずもれて見えなくなること。

*4 標榜：主義・主張などをはっきりとかかげ示すこと。

*5 奇異：ふつうと様子が違っていること。

*6 ぶざま：みっともないこと。

*7 威嚇：おどすこと。

*8 浸透：思想などがしだいに広い範囲に行きわたること。

*9 なんびとも：どのような人も。

*10 侵す：他者の権利などを損なう行為をする。

*11 けんもほろろ：どうすることもできないさま。

*12 はため：他人の目。

*13 陰湿：暗くてじめじめしていること。

問1 — 線部①「哲学するには、まず孤独になる必要があります」と

ありますが、この理由として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人の生き方について考えるとき、自分の個性とは何かを理解しそれをアピールしていくことが求められるから。

イ 人の生き方について考えるとき、自分一人の状態で考え、自分の価値観をしっかりとためることが大切だから。

ウ 人の生き方について考えるとき、人にたよることはできず、独り立ちして生きていくことが求められるから。

エ 人の生き方について考えるとき、人生は自分一人のものであり自分がどう生きたいかということが大切だから。

問5 — 線部③「2の項目が問題になっています」とありますが、どのようなことが問題になっていると考えられますか。次の文中の

ア・イにあてはまることばを、文中からアは三字、イは二字で書きぬきなさい。

現在日本にある **ア** は、日本国憲法で言う **イ** にあたるのではないということ。

問6 — 線部④『個人の尊重』の思想がまだ国民すべてにゆき届いていないのではないかとありますが、このように考える筆者は、

日本がどのような社会になることが望ましいと述べていますか。四十字以内で答えなさい。

問7 — 線部⑤「自分とは違う感じ方、違う考え方だから、友だちに

なれる」とありますが、このように言える理由として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 感じ方や考え方が違っている人が集まっている方が、いっしょに遊んでいておもしろいから。

イ 一人ひとりが違っているのは当然のことであり、時には口喧嘩するくらいの方が友情が深まるから。

ウ 自分とは違う考え方から何かを学ぶことで自分の中の知識を増やし、成長していくことができるから。

エ 意見の違いが互いの考え方を認めあうことにつながり、友情がそこなわれることがないから。

問8 — 線部⑥「陰湿ないじめ」の原因として考えられることを、文中から二十四字で探し、はじめと終わりの五字を書きぬきなさい。

問2 — 線部②「個人主義を、つよく標榜しようではありませんか」とありますが、筆者がこのように主張する理由として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 独り立ちする前に自分の人生行路の方向づけをするためには、自分独自の考えをしっかりと持ち、つらぬくことが大切だから。

イ 若いうちから個性を埋没させたり殺したりしていると、人と群れることしかできない、つまらない大人になってしまうから。

ウ 個人主義は利己主義と同じく自己中心のとらえられがちだが、個性を出していくためにはそのような面も必要だから。

エ 自分という個人を確立し、独り立ちすることで、親や先生からの束縛から解かれ、自由な人生を送ることができるから。

問3 — **A**・**B** にあてはまる四字熟語を、次のア～カの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 切磋琢磨 **イ** 面従腹背
ウ 呉越同舟 **エ** 付和雷同
オ 独断専行 **カ** 意気投合

問4 ▼▲の文中で挙げられているいくつかのエピソードは、どのようなことを伝えようとしたものですか。次の文中の**ア**・**イ**にあてはまることばを、▼▲の文中からどちらも四字で書きぬきなさい。

日本人の行動パターンにはかつての **ア** の名残が見られ、日本には **イ** が十分にゆきわたっていないということ。

